

共生型放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和5年3月20日

公表:令和5年4月26日

事業所名 共生型サービス事業所ひよしの家

区分	チェック項目	事業所の評価				保護者の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	
環境・体制整備	1	6	6	0	・共生型サービスの特色として、高齢者と一体的に関われるスペースとしている。	1				
	2	7	5	0	・その日の担当者を決め、対応している。	1				
	3	9	3	0	・高齢者施設のため、バリアフリーや手すりの設置など配慮している。	1				
業務改善	4	7	5	0	・サービス計画書の目標が達成出来るよう取り組むべき課題を職員全体で話し合っている。 ・事業所内のモニタリングにて振り返りを行っている。					介護と障がいのサービス評価を通して、PDCAを職員全体で行う。
	5	10	2	0	・アンケート調査を実施して業務改善に反映している。					アンケートでのご意見を踏まえ業務改善に取り組む。
	6	7	3	2	・ホームページに公開している。					
	7	5	2	5	・第三者評価は受けていない。					
	8	5	6	1	・eラーニングを活用し、資質向上を図っている。					定期的に研修会を計画、実施する。 外部研修へ参加する。
	9	11	1	0	・アセスメントやサービス担当者会議での話し合いを踏まえ、共生型サービス計画書を作成している。	1				日々の支援を通してアセスメントを行い、必要に応じて計画書の見直しを行う。
	10	2	6	4	・標準化されたアセスメントツールは使用していない。					
	11	9	3	0	・対象者の能力や個性に応じて、どのような活動が将来につながるか話し合い、プログラムの立案をしている。					対象者の将来を見据え、年齢や個性、能力に応じた活動プログラムを話し合い立案する。
	12	7	5	0	・共生型の特色である高齢者や地域との交流を踏まえ、固定化せず活動を行っている。	1				

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	2	1	・1日利用の時と、学校後の利用の時とプログラムを変え支援している。						個々に1日の日課を設定し支援する。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	5	0	・個々に様々な活動と高齢者との集団活動を組み合わせ作成している。							
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	7	2	・ミーティングを通して支援内容や役割分担について確認している。 ・業務分担表に記載し行っている。							
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	4	・ミーティングを通して支援の振り返りや、気付いた点等を共有している。 ・気付いたことなど記録に残している。							
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	1	0	・日々記録をとり、モニタリングや計画書の評価に活かしている。 ・ささいなことでも記録をとるようにしている。							
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	0	0	・定期的にモニタリングを行い、目標設定やサービス内容が妥当かどうか判断している。							モニタリングの頻度を増やして、タイムリーに支援の改善ができるようにする。
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	4	2	・身辺自立や自己肯定感の向上を目指し、家事作業、創作活動、地域交流等を通して支援を行っている。 ・将来の自立を考え、基本的な生活習慣や高齢者と共に過ごし、活動を通して感謝されることを課題としている。							ガイドラインの総則をスタッフが理解し、その総則に応じた活動ができるようにする。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	2	0	・支援専門員の招集に合わせて、ふさわしい関係者がサービス担当者会議に参加している。							
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	2	0	・年度ごとにスクールバスの運行状況に伴うサービスの利用調整など学校側と連携している。 ・個人的なことは保護者を介して行っている。情報共有は少し不足していると感じる。 ・連絡帳で情報を得ている。 ・送迎で変更がある場合はしっかりと連絡を取り							学校教諭との話し合いの機会を作り、療育や支援方法について共有する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	8	1	・受け入れた事例はないが、疾患・既往・服薬状況など把握し、状況に応じて主治医と連携が取れるように体制を整えている。 ・医療的ケアを必要とする子どもの受け入れはない。							
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	6	3	・学習発表会参観や担当教師との意見交換を通じて、情報共有を図っている。							
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3	3	・事業所へ移行した事例はないが、事例が生じた場合は支援内容等の情報を提供する。							
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	4	・事例はないが、受け入れる対象者の状況に応じて助言や研修の機会を作る。							
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	0	12	・高齢者や地域との交流機会はあるが、子ども同士と活動する機会はない。			1				子ども同士が交流できる機会を検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	5	4	・案内があれば積極的に参加するようにしている。							
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	2	0	・面談を通して、対象者の発達の状況や課題について共通理解を図っている。 ・迎えを利用し、口頭で伝えたり連絡帳を使い共有している。	1						

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	6	6	・実施はしていない。						
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	1	0	・共生型サービスの特徴、サービス計画に沿った支援内容、利用者負担額など説明し、了承をいただいている。	1					
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	3	0	・面談などで、将来への心配事や就活などの相談に応じ、対象者にとって最善はなにかを一緒に話し合っている。	1					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	8	・コロナ禍で障害者を支える父母の会の開催はない。	1					保護者同士の交流がもてる機会を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	0	・苦情窓口を設定し、契約書へ明記、対象者や保護者に周知している。苦情があった場合は速やかに原因を究明し、解消・解決につなげるようにしている。	1					
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	4	3	・定期的に広報誌を作成し、発信している。 ・迎え時に保護者にその日の様子を直接伝え、連絡帳でも書いている。	1					
	35	個人情報に十分注意している	12	0	0	・十分注意し対応している。	1					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	0	・対象者のコミュニケーション能力に応じて、声掛けや聞き取りの工夫を行っている。	1					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	7	・コロナ禍のため事業所に招待することは出来なかった。 ・コロナ禍となり、訪問を受けたり外出したりする機会を持っていない。						
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	6	0	・各種マニュアルは整備しているが、保護者へは全てを周知していない。	1					
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	0	・対象者と一緒に定期的に防災訓練を実施している。	1					
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	0	・虐待に関する学習会を行っている。						
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	5	0	・事例はないが、マニュアルを整備し組織的に行うようルールを設定している。						
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	7	3	・事例はない。アレルギーの程度や種類によっては対応が困難な場合もある。						
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	1	1	・ヒヤリハットを集計して分析・共有している。						
満足	44	子どもは通所を楽しみにしているか					1					

